

授業科目名	パフォーマンスキャリア英語	担当教員	Duncan Hamilton
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3 年 第 3 クォーター		
講義内容	<p>本授業は、グループワークを伴う講義形式で実施される。</p> <p>まずは演劇や音楽・ダンス活動をする際によく使用することば（専門用語）について学習する。</p> <p>次に、異文化理解を前提としながら、それぞれアーティストがどのような演劇や・音楽ダンスの体験を積んできているのか、また、舞台芸術活動の協働作業をしていく上で必須となるものの見方や考え方、価値観、態度について検討していく。</p> <p>最後に、実際に英語を使用して舞台芸術活動を展開できるようになるために、受講生はグループに分かれ、それまでに学んだ英語のことばやものの見方などをもとに、短編の演劇あるいは音楽・ダンスワークショップの英語進行台本を作成し、発表する。もしくは、自分が上演してみたいと考える演劇作品の演出案や、自分が手がけてみたいと思う舞台作品の装置や衣裳のデザイン案などを英語でプレゼンテーションを行う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 極度な不安を抱くことなく、英語で行われる演劇や音楽・ダンス活動に参加することができる。 ・ 英語を使用して、自分自身の活動やプロジェクトについて説明することができる。 ・ 海外や外国ルーツのアーティストと活動をするにあたり、自分たちのものの見方や考え方、価値観、態度について再考するとともに、彼／彼女たちのものの見方や考え方、価値観、態度について理解・尊重し、英語を使用して協働作業することができる。 ・ 英語を使用して演劇や音楽・ダンス活動を設計し、ファシリテーションを実施することができる。 <p>もしくは自分が上演してみたいと考える演劇作品の演出案や、自分が手がけてみたいと思う舞台作品の装置や衣裳のデザイン案などを説明することができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 自己紹介 グローバル人材育成とキャリア英語概要 2. 英語の発音、発声について研究 3. パフォーマンスアート用語・エクササイズやゲームの英語の名称と活動内容・方法 4. ミュージカルについて 5. 洋楽の歌詞を読み解き表現する 6. 自分自身についてのプレゼンテーション・議事録を記録する（1） 7. 自分自身についてのプレゼンテーション・議事録を記録する（2） 8. 英語でワークショップを設計する（1） 9. 映画を題材にして演出、パフォーマンス(サウンド・オブ・ミュージックなど) 		

	<p>10. 英語でワークショップを設計する (2)</p> <p>11. 英語でワークショップを設計する (3)</p> <p>12. まとめ</p>
事前・事後 学習	<p>毎授業後、配布したプリントや参考資料を用いて授業内容を復習し、それ以降の授業で積極的に活用すること。</p> <p>第 8～11 回のプレゼンテーションの準備に向け、グループワークが始まると、次の授業までの間に各グループが集まって打ち合わせをすることが必要となるので、お互いに協力し、スケジュール管理をして進めること。</p>
テキスト	各回の授業において資料を配付する。
参考文献	<p>Riggs, Seth. (1992). Singing for the Stars: A complete Program for Training your voice. USA: Alfred Publishing Co., Inc.</p> <p>竹林滋(2019) 「英語のフォニックス: 綴字と発音のルール」</p> <p>研究社 中村駿夫 (1999) 「発音記号の正しい読み方」 昇龍堂出版</p> <p>曾根田憲三(監訳) (1996) 「サウンド・オブ・ミュージック」 フォーインク クリエイティブプロダクツ</p> <p>佐藤 実 ・ 宮本 由紀 (1998) 『 海外に飛び出そう 英語でアート! 』</p> <p>公益財団法人 全国公立文化施設協会 (2019) 『劇場・音楽堂等子どものためのプログラム企画ハンドブック』</p> <p>公益財団法人 全国公立文化施設協会 (2014) 『劇場・音楽堂等で働く人のための舞台用語ハンドブック』</p> <p>澤田 肇 (2018) 『舞台芸術の世界を学ぶオペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇・宝塚』</p>
成績評価 の基準	<p>リアクション・ペーパーと定期試験を通して、創作活動をする上で必要な英語のことば（専門用語）や態度などが身についているかを確認していく。</p> <p>本講義の到達目標の中で最も重視しているのは、最終的に、受講者が英語で演劇や音楽・ダンス活動のファシリテーションをすることができるようになることである。あるいは、英語で演出案やデザイン案を発表できるようになることである。したがって、ワークショップの英語進行台本の作成とプレゼンテーション、もしくは英語の演出案／舞台装置のデザイン案の作成とプレゼンテーションによって、受講生の舞台芸術分野における英語の技能が十分に身についたかを評価していく。</p> <p>授業参加度とリアクション・ペーパー (50%) 英語進行台本／英語の演出案・舞台装置のデザイン案とプレゼン (30%) 定期試験 (20%)</p>
履修上の注意 履修要件	時間によっては身体を実際に動かすことがあるため動きやすい服装等の指定が入る場合がある。
実践的教育	該当しない。
備考欄	